

図書館だより

No. 3
2020年
9月14日発行

尼崎双星高等学校図書館

内容は、

- ・2学期の当番決め
- ・体育祭での役割分担 です。

第2回 図書委員会を開催します。
15日(火)の放課後15:40

7月の図書館の利用状況

	開館 日数	利用者総数 360人		貸出者総数 154人	貸出総冊数 409冊		リクエスト数 11件	パソコン 利用 6件
		昼休み	199人		1年	204冊		
7 月	20日	放課後	142人		2年	90冊		
		その他	19人		3年	61冊		
					職員	54冊		

*7月中の貸出冊数は昨年7月より69冊増えました!

1学期 図書館利用統計:2020年6月1日~7月31日<開館日数 41日>

★クラス別 図書貸出トップ10

順位	クラス	貸出冊数	順位	クラス	貸出冊数
1位	1年3組	104冊	6位	2年10組	37冊
2位	1年4組	96冊	7位	1年7組	33冊
3位	3年4組	65冊	8位	2年5組	25冊
4位	1年5組	58冊	9位	2年2組	20冊
5位	2年7組	47冊	9位	1年1組	20冊

★学年別 図書貸出冊数

1年	367冊	546冊
2年	103冊	
3年	76冊	



図書館に銀河! 惑星! ? 太陽系の惑星たちの大きさの比較を展示しています。

広い宇宙の中に浮かぶ「天の川銀河」、その端にある太陽系、その中の地球に暮らす私たち。

太陽系で一番大きな惑星は木星。木星は、その中に地球が1320個入るほどの大きさ。その木星が800個入る大きさが太陽である。広く遙かな宇宙の中の、小さな地球。大切な、私たちの地球。

『晴れ、時々くらげを呼ぶ』



鯨井あめ/著 講談社
高2の亨は母と二人暮らし。父が遺した本を一冊ずつ読み進めている。図書委員になった彼は、ある日、屋上で「くらげ乞い」をする奇妙な後輩・優子と出会う。僕たちは無力。世界をちょっとだけ変えたかった。

『夢をかなえるゾウ4』



水野敬也/著 文響社
平凡なサラリーマンが余命を宣告されて、かなえようとする夢を選択する。教訓はすっぴん刻みこまれる。笑って笑って最後に泣かせてくれる衝撃のラスト。なんともユニークな人生啓発小説。

『ないものねだりの君に光の花束を』



汐見夏衛/著 KADOKAWA
普通で個性がないことが「ゾウ」 lacks の高校生・影子には、正反対で永遠の主人公の同級生・真昼がいる。ある日 真昼の陰を知る。感動の物語。

163 直木賞受賞 『少年と犬』



馳 星周/著 文藝春秋
傷つき、悩み、惑う人びとに寄り添っていたのは、一匹の犬だった。震災のショックで心を閉ざした少年が、その犬を見て微笑んだ。犬は何を求めぬ向うのか。

163 芥川賞受賞 『首里の馬』



高山羽根子/著 新潮社
沖縄の古びた郷土資料館。ある台風の夜、幻の宮古馬が庭にまよいこむ。一世界が変貌する今、静かな祈りが切実に胸に迫る感動作。



『素敵な日本人』

東野圭吾/著 光文社
息を呑むミステリー、心に染みる親子愛、驚きのSFまで。四季折々の行事を題材にした4編と、異色のミステリー5編。短編集。

『海が見える家 それから』



はらだみずき/著 小学館
一月で会社を辞めた文哉は父が遺した南房総の海が見える家で暮らしはじめた。働くということは何かを見つめ直す。自分なりの生き方。幸せのあり方。

『駒音高く』



佐川光晴/著 実業之日本社
将棋界のプロを志す中学生、引退間際の棋士、将棋会館の清掃員。将棋世界で歩み始める七人に青春。家族小説の作家が温かなまなざしで描く



『尼崎ストロベリー』

成海隼人/著 幻冬舎
＜作者 贈呈本＞
尼崎・エネルギーと細やかな人情が複雑に入り混じる町。この町で暮らす、高校生・駿一と余命を宣告された母。「笑い」の力。オカンを救うためならなんだってできる！

『赤ずきん、旅の途中で死体と出会う。』



青柳碧人/著 双葉社
西洋の童話をベースにした連作短編ミステリー。森の中のお菓子の家。走り抜けるカボチャの馬車。次から次へと起きる事件を赤ずきんがツクリ解決！

『アルヒのシンギュラリティ』



河邊 徹/著 クラウン
人間とAIが暮らす街サンククラウド。天才科学者の息子アルヒは、幼なじみの物々、AIとともに「知の塔」に登る。少年の成長を描く長編SF



『スキマワラシ』

恩田 陸/著 集英社
白い光 - 光に麦わら帽子。廃ビルに現れる少女。兄と古い物に秘められた記憶が見える弟の二人は、少女の謎に巻き込まれる。地方都市を舞台にしたファンタジックミステリー

『願いを叶える雑貨店 黄昏堂』



桐谷 直/著 PHP出版
1話5分で読める、ショートショート新作。「記憶」を対価にどんな望みも叶う「不思議な雑貨」を手に入れた17人の運命は？

『透明人間は204号室の夢を見る』



奥田亜希子/著 集英社
高校生で小説新人賞を受賞したが、6年間小説が書けないままの実績。書店で自分に著書を手にする若い男と出会う。孤独と生きづらさを抱える女性を描く。

『君に読ませたいミステリがあるんだ』



東川篤哉/著 実業之日本社
高校に入学したばかりの僕は「迷文芸部」の部屋に迷い込んでしまう。美人部長は自作のミステリーを強引に僕に読ませる。部長のたくらむ大仕掛けを君は見抜けるか。想像を超えるトリック！

『ずっと読みたい 0才から100才の広告コピー』



ライツ社
0才から100才まで、その年齢にぴったりの「広告コピー」は、大切なことを思い出させる素敵な名言。私たちの人生に気づきや希望を与えてくれる言葉。心にひびく言葉。必読！

『生物の進化大図鑑』河出書房新社



生命誕生から微生物や植物、昆虫まで、あらゆる生物の進化生命37億年の驚異的な全貌をCGと化学写真を豊富に使った全生物の大迫力図鑑。

『40℃超えの日本列島で ヒトは生きていけるのか』



永島 計/著 化学同人
体温以上の「命に関わる危険な暑さ」に、人は対応していけるだろうか。人間の体温調節のしくみ運動と体温の関係、なぜ熱中症になるのか。体温の仕組みを解き明かす。

『海は地球のたからもの 病気がかかっている』



1. 海は病気にかかっている
2. 海はどうして大事な?
3. 海の生き物の役割
海を大切にしないと、地球はどうなるのか? 海の役割やしくみ、汚染問題などを豊富な図版でやさしく解説。私たちにできることは?

『南風吹く』



森谷明子/著 光文社
瀬戸内海に浮かぶ五木島。航太の通う高校は再来年に廃校になる。航太は俳句甲子園出場を目指す日向子を手伝う。十七音にける熱い思いが輝く。



『終電の神様』1~3

阿川大樹/著
それぞれの場所に向かう人々を乗せた夜の電車が、事故で運転を見合わせる。夜の電車が動き出す運命と人生の謎。感動のヒューマン・ミステリー